



いわて鳥獣保護センター通信

第二号
発行日
平成22年1月8日

○現在の收容鳥獣と救護状況

現在、当センターで終生飼育されている野生鳥獣の收容状況を右の表に示します。

平成21年度の10月1日～12月26日の間に野外で救護され、センターに搬入された野生鳥獣はタヌキ(3)、ニホンリス、ノウサギ、カモシカ、ヒナコウモリ、キジバト(2)、カワラバト(2)、キジ(2)、オオハクチョウ(2)、コサギ、トビ、ヤマガラ、ヤマドリ、オオタカ、ヒシクイ、チョウゲンボウ、ヤマシギ、ルリビタキ、フクロウ、セキセイインコ、ヒヨドリ、ハヤブサ、カラス、コハクチョウ、ホトトギス、ツグミ、ミツヒカモメの27種33個体でした。

33個体の転帰をみると、すでに野生復帰できたのがフクロウやツグミなど5個体、現在療養および訓練中のものが10個体です。なお、救護された33個体のうち、ケガや衰弱の程度が激しく、3日以内に死亡したものは10個体でした。

獣類	
タヌキ	オス1
ホンシュウジカ	オス1、メス1
ノウサギ	メス1
猛禽類	
トビ	12
ノスリ	4
ハヤブサ	1
フクロウ	1
チョウゲンボウ	3
チゴハヤブサ	1
その他の鳥類	
オオハクチョウ	17
コハクチョウ	1
マガン	1
ヒシクイ	2



屋内訓練舎で療養中の水鳥
奥からヒシクイ、オオハクチョウ、
コハクチョウ

この時期はヒナや巣立ったばかりの若鳥が搬入される春から夏にかけての子育て時期、オオハクチョウの北帰行シーズンからずれているのでセンターへの搬入が比較的少ない時期ですが、夏場はオオハクチョウの放鳥池に数羽程度しかいない野生のカルガモが50羽ほどに増えたり、オオハクチョウのグループが上空を旋回しながら鳴き交わすなど、オオハクチョウの救護シーズンの始まりを予感させます。センターの屋内訓練舎もこれからはしばらくは水鳥専用です。



冬景色の放鳥池

今シーズンのオオハクチョウの飛来中、センターの放鳥池で生活していたオオハクチョウの一羽が旅立ちました。冬の間しっかりと力を付けて、春のシベリアへの長旅が成功することを祈っています。



野生動物ピックアップ



ヒナコウモリ (*Vespertilio superans*)

12月22日に盛岡市の上田で保護された頭胴長70mm、体重18.5gの小型のコウモリです。本来ならすでに冬眠している時期ですが、何かの理由で表に出てきて寒くて動けなくなってしまったようです。

野生では昆虫を食べていますが、センターではミールワームや鶏肉を与えています。今は半ば冬眠しているのか夜行性のせいなのか、特に日中は動きがほとんど見られませんが、夜の間にはたくさん餌を食べているのでますます調子はいいようです。

写真は飼育ケースを移動するときに撮ったものですが、網にぶら下がって「キーッ!!」と威嚇する様子はまさにイメージ通りのコウモリです。

人工での冬眠は死亡のリスクが高いため、コウモリの扱いに慣れた専門家のもとで越冬してもらうことになりました。コウモリはセンターでも年に1、2回しかお目にかかることはありませんが、実は盛岡市内でもたくましく住んでいます。暖かくなってから気を付けて探してみると、宵闇の空にひらひらと舞うコウモリが意外と近くで見つかるかもしれませんよ！



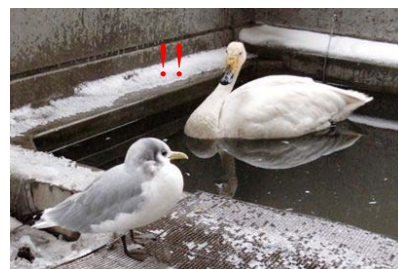
ミツユビカモメ (*Rissa tridactyla*, Black-legged Kittiwake)

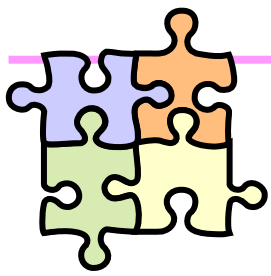
こちらは12月19日に盛岡市の松園でカラスに襲われていたところを保護され、松園動物病院経由で持ち込まれたミツユビカモメです。普通のカモメに比べると体がやや小さく、脚が黒いのが特徴です。ユーラシア・北アメリカ・グリーンランドの海岸部で繁殖し、日本へは冬鳥としてやってきます。

もちろん、海辺で生活するカモメの仲間なので内陸の盛岡で見ることはほとんどありませんが、風で運ばれてくるのか、強風後に衰弱した海鳥が内陸で保護されることが時々あります。

保護されたときには外傷などほとんどなく、海から離れて餌が取れずに弱っていただけのようです。搬入されたときからあまり人を恐れる様子無く、ハクチョウたちと仲良く同居し、餌(冷凍ワカサギ)もたくさん食べてくれるのでとても扱いやすく、見た目やしぐさもかわいいトリです。

翼や脚もしっかりしていて、年明け早々にボランティアの方の手によって宮古の海に放されました。





クイズ!! 僕だあれ?!



さて、僕は一体誰でしょう?
恐竜みたい?!僕はトリの仲間
だよ!

くちばしの形やユビの付き
方をヒントに考えてみてね。
首も少し長いかも?!
大きさは50cm位くらいだ
よ。

わかるかな?!

(答えは最後のページ)

終生飼育動物の紹介②



ヒシクイ
カモ目カモ科 亜種オオヒシクイ
Anser fabalis, Bean Goose

今回紹介するのは、センターに2羽収容されているヒシクイです。ヒシクイは全長75~100cm、体重2~3kgほどのやや大型のカモの仲間で、シベリアで繁殖し、日本には冬鳥としてやってきます。岩手県内ではほとんど見かけることはありませんが、お隣の宮城県や秋田県では飛来数が増加してきているそうです。オオハクチョウなどと比べて草食性が強いので、水草や田畑の緑の残っている少し南に行かなければならないのでしょうか?

写真のヒシクイは10月下旬に滝沢の月ヶ丘小学校で救護された個体で、左足が完全に折れていて治癒しなかったため、切断して義足を付けて生活しています。水鳥にとって両足の水かきは船のスクリューや舵と同じく、生活の上でとても重要な役割を持ちます。また、飛び立つときの助走や着陸にも両足の助けが必要になるため、野生で生きていくことはもうできません。

救護された当初は小松菜や大根の葉っぱなどを食べていましたが、最近ではトリ用の配合飼料もたくさん食べるようになり、ずいぶん体重が増えました。ここで出会ってしまったのも何かの縁、できるだけ快適なセンター生活を送れるように飼育設備や義足をもっと工夫してあげようと思います。

岩手県鳥獣保護センター

○所在地 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込390-29

○電話・FAX:019-688-4728

(不在の場合、お名前と連絡先を留守伝言のメッセージに残していただけると折り返し連絡します。)

○開所案内

年末～年始(12月29日～1月3日)を除く年中無休

午前8時30分から午後5時30分 (ただし、臨時に変更になる場合があります。)

○ケガや弱っている鳥獣を見つけたら、まず、ケガや衰弱の具合を見るのが大切です。むやみに手を触れたりせず、元気であればそっとしておいてください。ケガや衰弱のため、動けないようであれば、最寄りの広域振興局、総合支局、地方振興局保健福祉環境部又は保健福祉環境センターにお知らせください。なお、傷病鳥獣の状況により、しばらく様子を見守っている場合もあります。センターのスタッフが直接救護に向かうことは基本的にありません。

○鳥獣保護センターに傷病鳥獣を直接搬入される場合、それぞれの動物やケガ、症状に合わせた受け入れ態勢を整えて待機しますので、できるだけ事前にセンターまで連絡してもらえようお願いします。

○センターの見学や研修、野生鳥獣の貸し出しやボランティア活動などを希望される場合は所定の手続きが必要です。岩手県自然保護課もしくは鳥獣保護センターに連絡し、手続きについてお問い合わせください。

センターへのアクセス



クイズの答え：

鋭い嘴とツメの形から肉食の猛禽類だということが分かります。指の特徴は前二本、後ろ二本の対趾足(たいしそく)という配列になっています。

体長が50cmだから結構大型であることと、写真ではちょっとわかりにくいけれども、首がやや長いことから・・・

答えは、フクロウです。分かりましたか?ふわふわの羽毛に隠れているのでわかりませんが、実は頭が意外と小さく、足はこんなに長いんです!

頸椎(首の骨)の数が多いため後ろまで首を回してあたりを眺めることができるよ!

